

5章 名詞句 (名詞構文)

問題

【1】

ポイント

英語は名詞中心の言語だと言われるが、ここでは名詞表現の基本形を確認していこう。

解答・解説

(1) early riser

「私の母は早起きだ。」

- このように〔副詞＋動詞〕を〔形容詞＋名詞〕へと変えるパターンは頻出。early riser や early bird, morning person はいずれも「朝型人間」という意味になる。early bird は「時間に必ず早く来る人」の意味でも用いられ、morning person は主語が you の場合に使われることが多いとも言われる。
- 反意語「夜型人間」は、night owl, night bird, night person。

(2) his laziness

「怠けていたため彼は失敗した。」

- because of の後は名詞が来るため、lazy の名詞形の laziness を利用する。

(3) her decision

「彼女は大統領に立候補する決断をまもなく発表するだろう。」

- She decides to do it. を her decision to do it と名詞表現化すればよい。
- run for A 「A に立候補する」

(4) Despite / repeated denial

「彼は繰り返しその噂を否定したが、誰も彼を信じなかった。」

- Though [Although] S V ⇔ Despite [In spite of] + 名詞の書き換えは頻出なので覚えておく。あとは〔副詞＋動詞〕を〔形容詞＋名詞〕に変換すればよい。

(5) influence / crime / society

「この犯罪が社会に与えた影響は大きかった。」

- S has an influence [effect ; impact] on A. ⇔ the influence [effect ; impact] of S on A という名詞表現への書き換えも頻出。

【2】

ポイント

英語では、本来、文である表現を名詞化することがよく見られる。ここでは実際に英文を名詞化してみよう。

解答・解説

(1) the equality of men and women [men and women being equal]

「私は男女の平等に同意します。」

- equal の名詞である equality を用いるか, are という動詞を being という動名詞にして書き換えていく。後者の場合, men and women が動名詞 being の意味上の主語となる(動名詞の回で詳しく扱う)。
- (2) Columbus' discovery of America [the discovery of America by Columbus]
「コロンブスがアメリカを発見した理由を聞いたことがありますか。」
○ discover という動詞を discovery に変えて書き換える。discovery of の of は '目的格関係の of' と呼ばれるもので, discover の目的語を of 以下で示している。
Ex. his love of nature ← He loves nature.
- (3) the late arrival of the express train
「急行列車が遅れて着いたため彼は旅程を変えなければならなかった。」
○ arrive という動詞を arrival という名詞にする。arrival of の of は '主格関係の of' と呼ばれるもので, arrive の主語を of 以下で示している。
Ex. the rise of the sun ← The sun rises.
- (4) my great eagerness to learn Spanish
「私はスペイン語を勉強したいとやっきになったので, スペイン語の教材をたくさん買い込んだ。」
○ I was eager to *do* を名詞化して, my eagerness to *do* とする。
cf. He is able to *do*. → his ability to *do*
He is willing to *do*. → his willingness to *do*

【3】

ポイント

【1】【2】で学習した様々な名詞化表現(名詞構文)を使った問題を演習していこう。

解答・解説

- (1) gave / shake
「彼はビンを軽く振った。」
○ 英語では「ビンに軽い揺れを与える」といった名詞中心の構文をよく用いる。
Ex. He gave the door a kick. (彼はドアを蹴った。)
- (2) moment's thought / habitual liar
「一瞬でも考えれば彼がいつも嘘をついていることはわかるでしょう。」
○ if 節の部分は「一瞬の考えがあなたに (that 節の内容) を伝えるでしょう」と読み換える。「嘘をつく習慣がある」は、「習慣的な嘘つき」と、[形容詞+名詞]の表現に読み換える。
- (3) unfair treatment
「彼らは不当な扱いに文句を言った。」
○ 「不当に扱われる」→「不当な扱い」と読み換える。なお treatment には「取り扱い」の意味のほかに「治療」という意味もある。
- (4) her family('s) being
「彼女は自分の家庭が貧しいことを恥じていない。」

- 前置詞 of の後なので名詞節である that 節を名詞句（この場合は動名詞）に変える。
her family は動名詞の意味上の主語となる（詳しくは動名詞で扱う）。

(5) asked / height of

「先生は富士山の高さを私に尋ねた。」

- 「富士山がどのくらい高いのか」という名詞節を名詞句「富士山の高さ」と変える。
height [háit] は発音に注意。

(6) selfish refusal

「彼は利己的にも彼らの申し出を断ったので、彼らの怒りを買った。」

- 「十分に利己的で断った」という内容を「利己的な拒絶」という名詞表現〔形容詞＋名詞〕に書き換える。
- refuse < refusal *n.*

(7) admiration for / blinded

「彼は彼女の美しさに見とれるあまり、彼女の欠点が見えなくなった。」

- 「彼女の美しさへの彼の賞賛が、彼に欠点を見えなくさせた」と考える。
- blind A to B 「B に対して A の目を眩ませる」
- admire < admiration *n.*

(8) several vain

「我々はモンブラン登頂を何度か試みたが無駄だった。」

- 「何度かの無駄な試み」と読み換えればよい。

【4】

A.

全訳

確かに、記憶力と先見の明が知力の本質であるということを主張することができる。つまり、過去と未来の両方を現在の行動の指針として活用できる人間の能力が、人間を人間たらしめているのである。

B.

全訳

全体の成長率は鈍化しつつあるが、世界の人口は今後 30 年間の 10 年ごとに約 10 億人増加する。私たちが人口問題を解決できないなら、天罰が下されるだろう。

C.

全訳

ニュートンは書斎のドアを開け、20 年間の努力が灰の山になってしまったことを発見した。しかし、論文を焼失しても、彼はそれほど長い間落胆したままではいなかった。

D.

全訳

アメリカの教育制度は発達して、国民の必要性を満たすようになった。その最も際立った特徴は、知識階級の教育より大衆の教育に重点を置いているということである。

【5】

解答

- (1) a, b
(2) ① e ② d ③ a
(3) b
(4) a
(5) 「全訳」の下線部①～④参照。

解説

- (1) **a** 我々は考えや意見を交換するためだけに言語を使う。
○ℓ. 1～3でそれ以外の目的も述べられている。
- b** 我々はいかなる考えも数学的な言語と身振りの言語で表現することができる。
○下線部①の部分で「言語は身振りから数学的記号までをも含む」ということが述べられているが、その2種類で全てを表現できるとは述べられていない。
- c** 我々が言語を使用する目的によってそれがよい言語か悪い言語かが決まる。
○下線部④参照。
- d** 科学的な言語は非個人的つまり客観的であるはずである。
○ℓ. 18～20参照。
- e** 情緒的な言語を使用することは常に好ましいとは限らない。
○ℓ. 25～文末で情緒的な言語を使うのに不適切な場合が述べられている。
- f** もし我々が何かを考え出そうとする場合、感情に訴えるような言語を使うことは、その目的の邪魔になるだろう。
○ℓ. 28～文末参照。
- (2)
- ①前置詞「…として」 e
②直前の名詞の概念を限定する接続詞 d
③主節（の一部）を受ける疑似関係代名詞 a
- a** 「アクセントから分かったことであるが、彼は外国人だった。」
《主節（の一部）を受ける疑似関係代名詞》
- b** 「我々は年をとるにつれて、自分の能力の限界を知る。」《比例を表す接続詞》
- c** 「若かったけれども、彼にはその仕事をやるだけの力があつた。」
《譲歩を表す接続詞》
- d** 「あなたの知っているような都市生活は人間にとって不自然なものである。」
《直前の名詞の概念を限定する接続詞》
- e** 「私はその発見を大した価値がないものであると見なした。」《前置詞》
- f** 「男性は通例レスリングが好きであるが、女性はそうではない。」
《対照を表す接続詞》
- (3) fail to do 「…しない；…しそこねる」
- (4) 「実情であると私達が信じていることを率直に説明すること」
- a** 見た通りの物事の現状を述べること。

- b 正当な判断とされているものを率直に表明すること。
- c 信じられるような例を簡単な言葉で述べること。
- d 組織の中で行われていることを科学的に記録すること。

(5)

①◇ *so used as to cover* ~ 「~を包括するほどに用いられて」

○ *so ~ as to do* 「…するほどに~」 → ここでは「様態」に近い意味を表しており, *is used in such a way as to cover ~* などと書き換えることができる。

○ *cover* : ここでは「~を含む」の意。

◇ *any means used to convey emotions and thoughts* 「感情と思想を伝えるために用いられる手段」

○ *used* は *means* を修飾する過去分詞。

○ *to convey* … : 目的を表す副詞用法の不定詞。

◇ *from mere gesture language at the one extreme of simplicity, to mathematical language at the other extreme* 「一方の単純な方の極端である単なる身振りによる言語から, もう一方の極端である数学的 (記号による) 言語に至るまで」

○ *from A to B* 「AからBまで」

○ *mere* = *only* 「単なる」

○ *extreme* 「極端」

○ *simplicity* 「単純さ」

②◇ *Whether A or B* 「AかBか」《主部》

◇ *depend on ~* 「~に頼る; ~次第である」

◇ *the purpose for which we use it* 「我々がそれ〔言語〕を使う目的」

○ 前置詞 + 関係代名詞 < *we use it for the purpose*

③◇ 主部になる名詞節。

◇ *what* は *indicate* の目的語として働いている (= *The thing which the word is used to indicate*)

◇ *to indicate* : 目的を表す副詞用法の不定詞。

○ *indicate* 「~を指し示す」

④◇ *with the deliberate intention of …ing* 「…しようという故意の意図を持って」《直訳》

○ *deliberate* 「慎重な; 故意の」 > *deliberately* 「故意に (= *on purpose*)」

○ *the intention of …ing* 「…しようという意図」

○ *evoke* 「~を引き起こす [呼び起こす]」

⑤◇ *for the purpose of …ing* 「…する目的で」

◇ *arouse* 「~を目覚めさせる; ~を刺激する」

全訳

私達は, お互いにコミュニケーションをするためや, 状況に対する個人的な反応を表すため, また誰か他の人の反応を刺激するため, そしてまた何かを考え出すために言語を用いる。言語とは, それを使う人が伝えたいと思うことを伝える 1つの手段だと言って良いであろう。このような広い意味において, ①「言語」は, 一方の単純な方の極端である単なる身振りに

よる言語から、もう一方の極端である数学的（記号による）言語に至るまで、感情と思想を伝えるために用いられるいかなる手段をも包括するほど広く用いられている。

悪い言語というものは、それが用いられる目的を達成できない言語であり、よい言語というものは、それが用いられる目的を達成する言語である。言葉というものは、ある目的を持っている人によって、ある文脈で用いられる限りにおいてのみ、道具でありうるのである。

⑤それゆえ、私達が言語を上手に使っているか、下手に使っているかということは、私達が言語を用いる目的によって決まるのである。

話すにしろ書くにしろ私達が1つの語を（あるいは語の結合を）使う場合、最も明らかな目的は、何かある物を、ある関係を、またはある特性を示すことである。③その語を用いて示すものが、その「意味」と呼ばれることも時にはある。例えば、あなたと私がスライゴウ湾の岸に立っていて、突然1羽の大きな白い鳥が頭上に飛んでいるのを見るとき。私はあなたに、「あれは白鳥だ」と言う。私はそう言うことによって、私達が見ている物が白鳥と呼ばれている種類の鳥の1羽であるということをあなたに指し示すことになる。私がこの時に用いた「白鳥」という語は単純で明快な意味を持っている。この意味は非個人的で、つまり、もっと都合のよい言い方で言えば「客観的」である。いかなる科学研究においても、言語を使う主要な目的は、使用される語が非個人的、つまり客観的であることを必要とするので、私達はこのような言語の用い方を「科学的」と呼んでも差し支えない。

④時々私達は、読者の情緒的な気持ちを引き起こそうという意図を持って、言葉を使用することがある。すなわち、書かれていることに対して、読者にある反応の仕方をして欲しいと思うのである。このようにして用いられる言語は、「情緒的」とは言ってもよいであろう。このような情緒的な方法で用いられる語は、情緒的な特徴があると言える。⑥もし私達が情緒的な気持ちを起こさせるために話すならば、情緒的特徴を持つ語を用いることがその目的には効果がある。しかし、私達が真実であると信じていることを率直に説明することを目的としている場合には、情緒的特徴を持つ語は不適切である。詩や演説で情緒的な特徴を持つ言語を使うことは、話し手が達成したいと思っている目的のためにおそらく不可欠であろう。しかしながら、もし何かを考え出したいと思うならば、その時は、情緒的特徴を持つ言語を使うことは私達の目的の妨げとなってしまふ。おそらくこのような言語は、効率よく考えることに対して克服しがたい障害となるであろう。

注.....

ℓ. 1 ◇ in order to *do* 「…するために」

○ to communicate, to express, to stimulate のそれぞれに続く。

ℓ. 2 ◇ stimulate 「～を刺激する；～を激励する」

◇ for the sake of ...ing 「…するために」

◇ think O out 「Oを考え出す」

ℓ. 3 ◇ means 「手段」

◇ convey 「～を運ぶ；伝える」

ℓ. 7 ◇ the purpose for which it is used 「それ (= language) が使われる目的」

< it is used for the purpose (前置詞 + 関係代名詞)

ℓ. 9 ◇ in so [as] far as ~ 「～する限りにおいて (= insofar as ...)」

- ◇ context 「①前後関係；文脈 ②（ある事柄の）状況；環境」
- ◇ have some purpose in view 「何らかの目的を（心に）持っている」
- ℓ. 11 ◇ either A or B 「AかBか」
- ℓ. 12 ◇ indicate 「～を指し示す；～を表す」
- ℓ. 13 ◇ suppose 「もし～ならば（= if）；～だとしたらどうだろう」
- ℓ. 14 ◇ see O …ing 「Oが…するのを見る」
- ℓ. 15 ◇ thereby 「それによって；それに関して」
 - ◇ the object (that) we are looking at と補って考える。「我々が見ている対象物」
 - object *n.* [ˈɔːbdʒɪkt] 「①物 ②対象物 ③目的；目標 ④目的語」
 - v.* [ˈɔːbdʒɪkt] 「反対する；異議を唱える」
- ℓ. 16 ◇ class：「種類；部類」の意（= kind）
 - ◇ called は the class of birds を修飾する過去分詞。（= the class of birds which is called swan）
 - ◇ The word と *swan* は同格。「白鳥という言葉」
- ℓ. 17 ◇ straightforward 「まっすぐな；率直な」
 - ◇ or：換言を表す用法「つまり」
- ℓ. 18 ◇ Since the primary purpose of the usage of language in any scientific inquiry necessitates that ～ 「いずれの科学的研究でも言語を使う第一の目的は、～ということが必要とするので」
 - the primary ~ inquiry (S) necessitates (V) that ~ (O) の第3文型。
 - since ~ 「①～以来 ②～だから 《理由》」
 - primary [ˈpraɪməri] 「①主要な ②初等の；初歩の」
 - usage [ˈjuːsɪdʒ] 「用法；慣用法」
 - necessitate 「～を必要とする」 < necessity
- ℓ. 19 ◇ the words used 「使われる言葉」 = the words (which are) used
 - ◇ objective 「客観的な」 ⇔ subjective
- ℓ. 22 ◇ we want them to respond in a certain way to what is said 「読者に、私達が言っていることにある方法で反応してほしいと思う」
 - want O to *do* 「Oに…して欲しいと思う」
 - respond to ~ 「～に反応する」
 - in a certain way （ある方法で）が入った形
 - what is said 「言われる事」：to の目的になる名詞節。
 - ◇ Language thus used 「このように使われる言語」
 - thus 「そのように；このように」
- ℓ. 23 ◇ in this emotive manner 「このような情緒的な方法で」
- ℓ. 27 ◇ oratory 「雄弁（術）；演説；修辭；誇張的文体」
- ℓ. 28 ◇ the purpose (that) the speaker wishes to achieve と補って考える。「話し手が達成したいと望む目的」
- ℓ. 29 ◇ we are hindered in our purpose by using ~ 「我々が～を使うことによって我々の

目的は妨げられる」《直訳》

- hinder 人 in ~ 「人の～を邪魔する」 *cf.* hinder 人 from ...ing
- ℓ. 30 ◇ insuperable obstacle 「克服できない障害」
- insuperable [ɪnsú:pərəbl]

【6】

解答・解説

- (1) a very slow and deliberate speaker

「私の父はとてもゆっくり慎重に話す人だ。」

- 副詞 slowly and deliberately + 動詞 speaks を、形容詞 slow and deliberate + 名詞 speaker へと変換する。

- (2) absence from the party

「彼がパーティーにいなかったことに気がついた者はいなかった。」

- he was absent → his absence となる。

- (3) his failure in the math examination

別解 his [him] having failed in the math examination

「彼が数学の試験で落第したと知らされた。」

- he had failed → his failure となる。
- inform A of B 「AにBを知らせる」

- (4) his attendance at the ceremony

別解 his [him] attending the ceremony

「私は彼がその式に出席するように主張した。」

- he attend the ceremony → his attendance at the ceremony となる。なお, attend は「～に出席する」の意味では他動詞であるが (attend at the ceremony ではなく attend the ceremony), 名詞化されると前置詞 at が必要になるので注意。
cf. enter a school 「入学する」 → entrance into a school

- (5) wide difference between these two mobile phones

「この2つの携帯電話はお互いに全く異なる。」

- widely different → a wide difference となる。A is different from B . → There is a difference between A and B . の書き換えは頻出。

【7】

ポイント

並べ換える前に、動詞表現の日本語を名詞化された表現へと読み換えた上で解く問題である。日本語表現との違いを改めて確認しよう。

解答・解説

- (1) After the appearance of the rash, infected patients are contagious.

= After the rash appeared, ~ .

- 「発疹が出る」が「発疹の出現」と名詞表現になっていることに注意。

- contagious 「接触伝染性の；伝染しやすい」
- (2) Avoiding excess fat will help you achieve a good figure.
= If you avoid excess fat, you will achieve a good figure.
- 「余分な脂肪を避けることがよいスタイルを手に入れる助けとなる」と無生物主語構文も利用する。
- excess 「超過；過多」
- (3) The shirt remained wet after repeated attempts to dry it.
= ~ after I repeatedly attempted to dry it.
- 「何度も乾かそうとしたが」→「乾かそうとする繰り返しの試み」と読み換えて並べ換える。
- (4) The mere sight of the hideous scene will make everyone shiver with fear.
= Whoever sees the hideous scene will shiver with fear.
- The mere sight of ~は堅い表現であるが入試では時々見られる。
- (5) The thing I am most impressed with is your emphasis on the development of infants' personality.
≡ ~ is the emphasis you put on the development of infants' personality.
- The thing の後には関係詞の省略がある。

【8】

解答

- (1) Have you done with the book I lent you?
- (2) What have you done with that dictionary?
- (3) Watch out for the next corner.
- (4) Look out for some nice iceberg lettuce, please.
- (5) Have fun.
- (6) Take your time.

解説

- (1)
 - 「私が貸した本」は the book (that) I lent you となる。
 - book の前に定冠詞 the がついているのは、関係詞節の (that) I lent you によって限定されているからではなくて、その状況において、「私が貸した本」は了解事項になっているからである。
 - 「~はもうお読みになってしまいましたか」は with を用いれば
Have you done with ~?
Are you through with ~?
Have you got through with ~? のように表すことができる。

(2)

- 「あの辞書はどこに置いたの」に対応する英語は、with を用いるという条件を満たせば What have you done with that dictionary? となる。
- do with ~ は、辞書的には「~を処理する」という意味だが、What have you done with that dictionary? は

「あの辞書はどうしたか」

↓

「あの辞書はどこにおいてきたか」

↓

「あの辞書はどこにあるのか」

というように、意味がより具体的な意味に変化する。

Ex. “What have you done with my camera?” “On the shelf.”

(僕のカメラはどこにありますか。)(棚の上にあります。)

なお疑問詞が how ではなく what である点にも注意。

(3)

- 「~には気をつけて」「~に要注意」という時の決まり文句は

Watch | out for .
Look |

ここでは の部分に「次の角」にあたる the next corner を入れる。「次の角」は了解事項なので the がつく。

- Watch [Look] out for ~ の代わりに、Take care of ~ を用いてしまった人もいるかと思うが、take care of ~ は look after or deal with ~ の意味なので、ここでは用いることができない。例えば「交通に気をつけろ」というのを Take care of the traffic. としてしまうと「交通そのものを管理せよ」という意味になり、署長が交通巡査に言っている命令になってしまうので

Be careful of the traffic!

Watch [Look] out for cars! としなくてはならない。

(4)

- 「いいレタスがあったら買ってきてください」を out を用いて書けば、

Look out for some nice iceberg lettuce, please.

となる。

この look out for は watch or search carefully for の意味で用いられている。つまり look for + out で「自分のテリトリーの外部で(レタスを)求める」の意味になるのである。Look out for cars! で「車に気をつけろ」となるのも基本的な考え方は同じで「自分のテリトリーの外部で車を見つけろ」が直訳。

- ところで lettuce は植物としてのレタスは可算名詞 、食用としてのレタスは不可算名詞 で、1 個、2 個と数える時は a head of lettuce となる。また日本で言う「レタス」は、英語では、iceberg lettuce にあたることも覚えておこう。

(5)

- 「楽しんでください」という日本語を英語にするには命令文の形にしなくてはならない。また「have を用いて2語で」という条件が与えられているので、Have ()。という形になる。
 - have は他動詞なので、補わなくてはならない1語は名詞である。
 - 文法的に考えれば、()に入るのは、可算名詞の複数形か不可算名詞となる。結論を言えば、不可算名詞の fun を補って、Have fun. とすればよい。
 - fun は入試で頻出する語だが、不可算名詞であるという認識がない生徒が多い。次の例文で確認しておいてほしい。
- ① “Well, I’ve got to go. I’m meeting my brother at midnight.”
“OK. Have fun.”
(もう行かなくちゃ。深夜12時に兄と待ち合せているの。)
(OK。楽しんでください。)
- ② I don’t see the fun of playing cards.
(トランプをしてもちっとも楽しくありません。)
- ③ That’s a lot of fun. (それはとても面白いですね。)

(6)

- your を用いて「ごゆっくり」を英語にすれば Take your time. となる。
 - take one’s time は入試に頻出する慣用表現で、take time (時間がかかる) と区別する必要がある。次の例文で確認しておいて欲しい。
- ① “Please wait a minute.” “Don’t worry. Take your time.”
(ちょっとお待ちください。)(どうぞご心配なく。ごゆっくり。)
- ② I’m afraid this task will take time. (この仕事は時間がかかりそうだ。)

今日の一言

Good swimmers are oftenest drowned.

「得意に鼻突く。」

Good swimmers は直訳だと「よい泳ぎ手」となるが、このように英語では名詞表現が比較的多用される。日本語は、英語のような「形容詞＋名詞」ではなく、「副詞＋動詞」が中心の言葉だと言われるため、英語の名詞表現は動詞化した方が訳しやすくなることが多い。つまり、「泳ぎが上手い(人)」と読み替えるのである。これを名詞構文と呼ぶ。皆の中には、周囲に英語が出来る人がたくさんいて圧倒されているように感じている人もいるかもしれないが、出来るように思われる人ほど失敗も多くしているかもしれない。まさに Good swimmers are oftenest drowned. である。何であれ謙虚に学ぶ態度が大切だ。テキストで間違えた問題は謙虚に反省し、しっかりと復習をしていこう。